

「届いていない人びとに届ける」解放と開発のための教育・トレーニング

2013 年度中間報告 4 月～9 月
農村開発教育協会 (SRED)

はじめに

SRED は 1979 年よりタミールナドゥ州において抑圧と差別と排除をうけてきたコミュニティの権利のために声をあげてきました。SRED は、農作業、採石、煉瓦作り、荷車運搬に従事する労働者、部族、ダリット、女性、遊牧者、性的マイノリティ、マタマなど未組織のセクターの間で、民衆運動を組織してきました。SRED はカースト、階級、信教そしてジェンダーに基づく差別や暴力のない社会を目指しています。

インドにおいてカーストの要素はダリットを社会階層の底辺に押し下げてきました。社会の一番下におかれたダリット女性は、教育の欠如、経済的不利益、社会的無力化、DV、政治的不可視、そして性的抑圧などさまざまな形態の差別をうけています。

ダリット女性は、社会的、経済的、政治的力をもぎとられ、非常に不均衡な立場に置かれているため、数々の差別と暴力を経験します。ダリットであり女性であるという危険要素が合わさることにより、彼女たちは社会的にも経済的にも脆弱にされ、政治的意見をもぎとられています。それにより、彼女たちが暴力的な状況にさらされると同時に、そこから逃れることができない可能性はさらに高まります。こうした挑戦を乗り越えるため、SRED は、“届いていない人びとに届ける”として、ダリットの解放と開発のための教育とトレーニングのプログラムを進めてきました。

この報告は 2013 年 4 月から 9 月までの間の活動報告です。

1. アンベドカル学習

正義、平等、非差別のアンベドカル学習コースは、ダリットの学生と若者を対象にした 1 年間の通信教育プログラムです。受講資格は高校教育修了です。

カリキュラムには、アンベドカル思想、アンベドカルの著作品、ダリットの歴史、ダリットの政治、原理主義そしてダリットフェミニズムが含まれています。

教える方法として、教室での講座、視聴覚ツール、ダリットのリーダーとの交流、ダリットの闘いと成功事例の経験交流などが含まれます。グループワーク、意識高揚の歌、太鼓叩きのトレーニング、ロールプレイ、絵画などがあります。コースの教材は SRED が提供しています。

SRED のスタッフと運動のリーダーが手分けして、各村での講座や活動を担当しています。毎月第二土曜日に 12 の村でそれぞれ教室が開かれています。各村の教室には毎回 6～8 人の受講生が集まります。全体で 123 人（女子 74 人、男子 49 人）がコースを受けています。

コースはまだ途中ですが、終了後は各自に修了証書を渡す修了式を公共の場所で行い、卒業生が一堂に集まります。修了生は学んだことや習得した技能をそこで発表できます。

このコースはダリットの権利に関する未来のダリット活動家の育成場所であり、彼らは将来ダリットのリーダーとなり、アンベドカル博士の思想をさまざまな分野やレベルで実践していくでしょう。

2. 退学防止のためのダリット児童生徒の学習支援

ダリットの子どもたちは学校で不平等な扱いを受け、差別をうけています。カースト差別と社会的不平等のため、ダリットの子どもたちは他の生徒のようにしっかりと学習ができる機会をもっています。このため、ダリットの子どもたちにとって授業についての学習が難しくなります。退学を防止するため、またダリットの子どもたちが力を発揮して他の生徒と同じように成果をあげる機会を作るため、SREDはダリットの子どもたちのために夕方の教室を開き、学習指導をしています。現在、18の村で教室が開かれています。

教室で、子どもたちは毎日学校で習ってきたことを復習します。復習する科目は、科学、数学、英語で、子どもたちは宿題をし、総合的な知識と力を高め、社会の問題に目を向けます。夏休み中は、リーダーシップ育成、スキルトレーニング、文化トレーニングなどの特別集中講座が開かれます。

それぞれの村の中から、高等教育を終えた若者一人が教員として選ばれます。現在18人の若者たちが子どもたちを教えています。コーディネーターは夜間クラスのモニターをしたり授業進行の世話をします。モニターをしながら、夜間クラスの子どもが学校の授業についていけなくなって遠ざかることのないよう支援します。コーディネーターは親の会を開き、家庭訪問もします。こうした努力により、退学する子どもの数は大きく減少しました。

夜間クラスの生徒の年齢は10歳から15歳です。授業は夕方5時から7時まであります。月に一度SREDはカルセンターで18人の教員のための特別トレーニングを行なっています。

取りくみの成果

子どもたちの間には相当の変化が見られます。不安や恥ずかしさを克服し、自信をもったように見えます。子どもたちは学校での勉強が重要であると発見しました。子どもたちは授業に興味をもち、課外活動にも参加するようになりました。授業中の先生の質問にも積極的に答えるようになりました。以前は生徒たちは数学、科学、英語が苦手で、試験の点数も悪く、挫折していました。そのため授業についていけなくなり、厭な経験をしました。今、子どもたちはこれら科目が好きになり、休むことなく授業を受けています。

親との話しあい

教員とコーディネーターは夜間クラスに来ている子どもたちの家庭を定期的に訪問し、親たちと話しをしています。親たちに子どもの教育について引き続き関心をもってもらうように励まします。こうして、子どもたちは毎日学校に行くようになります。女の子も高校に行けるようになります。

3. スキルとトレーニングと能力育成

a) スキルトレーニング

この報告書の期間中、15日間から成るトレーニングを開き、セックスワーカーおよびマタマの女性から30人が参加しました。トレーニングは3つの段階に分けられました。第一の段階は5日間のトレーニングでカルで実施され、第二の段階は5日間でパラボイで実施され、第三の段階は5日間でティルタニで開催されました。これらのトレーニングは、紙コップ作り、ナプキン作り、網のバッグ作りのためのスキルと知識を強化することを目的としていました。トレーニングの受講者は小規模事業に関するガイダンスを受けました。受講を終了した女性たちは自信をつけ、それぞれの選択で商売に関わり始めました。SREDは新規の受講生に対して、チェンナイ市で材料を買って提供しました。

受講生は製品を作り始め、出来上がった製品を近隣の市場や店などで販売されるよう促進しています。

b)縫製と刺繍

縫製と刺繍のトレーニングは3ヶ月間続きます。上半期、7つの村でトレーニングを行ないました。各村で8人から10人の若い女性が受講しました。トレーニングは本格的なコースで、受講修了後に輸出用縫製工場、テーラーショップ、自営業など、女性たちの職探しも支援します。SREDは受講生の中からトレイナーを育成し、新しい受講生たちに縫製や刺繍の技術を教えます。製品には、ブラウス、スカート、子ども服、バッグ、刺繍を施したドレスなどがあります。トレイナーのチームはそれ以外に掃除用の洗剤やオイルなどの作り方も教えます。トレーニング修了後、受講生は男児の服や男物の服の仕立ても習います。

c)共同農場

マラレディ・カンディガイとマハラジャプラムのダリット女性20人からなるチームが、共同農場促進のためのトレーニングを受けました。農場での実地研修に加え、月1回の屋内での授業もありました。

共同農場は主にコサラプラム、マラレディ・カンディガン、マハラジャプラムの3つの村に集中しています。コサラプラムでは特にイルラの人びとに重点を置いています。共同農場を行なっているどの村でも、人びとは政府から提供された土地をもっています。SREDは土地をもらった人びとに、共同農場に関わるよう薦めています。

マラレディ・カンディガイとコサラプラムでは、女性一人につき最低1.5エーカーの土地が提供されました。マハラジャプラムでは一人につき約1エーカーの土地が提供されました。マラレディ・カンディガイでは45人の女性が共同農場に参加しています。

女性たちはそれぞれ政府より受けた土地を寄せあい、共同で土地を耕しています。コサラプラムではイルラの女性たちが合計1,000エーカー以上になる土地を共同で耕しています。SREDは所有者たちに共同農場方式で土地を使うよう奨励しています。

女性たちにはリーダーシップ養成、能力構築、共同農業、有機農業、食の安全、堆肥作りなどのトレーニングを受けています。政府からの土地は丘陵地帯にあり岩や石が多いため、食物栽培には適していません。そのため、第一段階では土地をきれにして、耕作に適するようにしました。今、女性たちは交替で土地を耕しています。土地をならすために女性たちはトラクターを買いました。女性たちはトラクターの操作方法を自力で習っています。

有機種苗を共同農場に参加する女性たちに配布しました。条件や、収穫が終わったら、もらった種を倍の量でSREDに返すということです。女性たちには、ナッツの種、アズキの種、異なる品種の苗木など、短期間でたくさん育つ種苗を配布しました。

トレーニングのお陰で女性たちは自分たちの村で堆肥の穴を作ることができました。女性たちは今、自然の材料を使った堆肥を作っています。彼女たちの取り組みは村にいるその他の女性や農民の刺激となり、有機農法への関心を集めています。現在、地元でシードバンクを開設する計画があります。それができれば、有機農法による種苗を他の人たちも使えるようになります。

